

第28回 The 28th Annual Meeting of the Japanese Society for Dialysis Access

日本透析アクセス医学会 学術集会・総会



会期 2024年10月5日(土)~6日(日)

会場 京都市勧業館みやこめっせ

京都市左京区岡崎成勝寺町9番地の1

大会長 佐藤 暢 桃仁会病院 院長

副大会長 末光浩太郎 関西労災病院 腎臓内科

副大会長 人見 泰正 桃仁会病院 臨床工学部部長

大会事務局
特定医療法人桃仁会病院
〒612-8026
京都市伏見区桃山町伊賀83-1
TEL:075-622-1991 FAX:075-623-0226

運営事務局
ちたクリエイティブ株式会社
〒456-0058
名古屋市熱田区六番3-5-3 S-FORT六番町204
TEL:052-387-5228 FAX:052-308-5229
E-mail:28jsda@c-bind.jp

<https://c-bind.jp/28jsda>



エコーガイド下 VAIVT による開存期間に与える因子の検討

医療法人 康仁会 西の京病院 診療支援部 臨床工学科 ¹⁾透析センター²⁾

特定医療法人 桃仁会病院 ³⁾

野口 幸 ¹⁾川西 大 ²⁾二神徳明 ¹⁾山岡みゆき ²⁾樋口侑子 ²⁾樋口 敦 ²⁾葛井総太郎 ²⁾吉岡伸夫 ²⁾

小林達也 ³⁾佐藤 暢 ³⁾

【緒言】

当院透析センターは2018年6月からエコーガイド下でVAIVTを行っている。今回、治療開始から6年が経過したので治療成績を報告する。

【方法】

2018年から2024年でVAIVTを施行した147名を、VAIVT治療後、3か月以内に再治療した28名(早期群)、3か月以降に再治療をした69名(狭窄群)と、再治療を受けなかった50名(非狭窄群)に分類した。

方法は、エコーによる治療前の血管内径、FV、RIとVAIVT治療直後の血管内径を3群で比較した。また、早期群と狭窄群の2群で、動静脈吻合近位部(近位部)狭窄の比率とVAIVT直後にエコーで血管内膜損傷認めた症例の比率を比較した。

【結果】

治療前の血管内径は、早期群と狭窄群に比べて早期群が狭かった。治療後の血管内径も早期群が狭窄群に比べて狭かった。FVは、早期群が非狭窄群と狭窄群に比べて低下を認めた。RIは、早期群が狭窄群に比べて高値であった。また、近位部の狭窄は、早期群が24名(85%)、狭窄群は38名(55%)で、さらに、VAIVTの血管内損傷は早期群が6名(21%)、狭窄群は4名(5%)で早期群の比率は高かった。

【結語】

VAIVTの開存期間は、治療前後の血管エコーで予測できると考えられた。また、近位部狭窄やVAIVT後の血管内膜の損傷は、早期再狭窄の要因となると示唆されるので、エコーによる定期的な観察が必要であると思われる。